

令和6年6月21日 小方まちづくり特別委員会 議事録  
11時09分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 小田上 尚典

副委員長 細川 雅子

委員 中野 友博、豊川 和也、小出 哲義、末広 天佑、藤川 和弘、  
中川 智之

議長 北地 範久

副議長 寺岡 公章

○欠席委員 なし

○小田上委員長 予定した時間より少し早いですが、この後、予定たくさんございますので始めさせていただきたいと思います。

定足数に達しておりますので、ただいまより会議を開会します。

開会に当たり、市長に御挨拶をいただきたいと思います。

○小田上委員長 市長。

○入山市長 小方まちづくり特別委員会、開催ありがとうございます。

よろしくお願ひ申し上げます。

○小田上委員長 ありがとうございます。

それでは、議事日程に従って進めさせていただきます。

まず、日程第1、執行部からの報告及び執行部への質問についてを議題といたします。

議事に入る前に委員と執行部の皆さんにお願いを申し上げます。

執行部におかれましては、説明をされる際は挙手をしていただき、委員長から指名を受けてください。

説明をする際は、課名と職名を名のってから説明していただきたいと思います。

発言される際には、マイクのスイッチを入れ、マイクに近づいて発言をしていただきたいと思います。

それでは、議事日程に従って進めさせていただきます。

小方まちづくりに関して、まず、執行部からAからD地区に係る進捗状況等の報告を受け、引き続き令和6年6月7日開催の小方まちづくり特別委員会が出た質問等をまとめ、市長宛てに提出をしております、小方まちづくり特別委員会からの質問について(依頼)に対する答弁を併せて行っていただきたいと考えております。

なお、提出した質問書の内容は、1点目、スポーツ・体験型の道の駅の基本構想・基本計画を策定するに当たり、市はプロポーザルで決定した受託業者に対して、どのように考え方や思いを伝えますか。2点目、プロポーザルの結果等をお知らせください。3点目、道の駅、隣接する体育施設のメインターゲットを教えてください。以上の3点です。

それでは、執行部からの報告及び質問書に対する答弁をよろしくお願ひいたします。

○小田上委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 企画財政課長の三井です。

資料につきましては、サイドブックに貼り付けさせていただいております小方小・中学校跡地A B C D地区の進捗状況についてで説明をさせていただきますが、一部文言の誤りがありましたので、修正させていただいたものを、現在貼り付けているところでございます。よろしいですか。

それでは、早速、AからD地区の進捗状況と、御質問のありました、3つの事項について回答をさせていただきます。

初めに、AからD地区の進捗状況についてでございますが、まず、A地区(事業用地)でございます。

大竹市旧小方小学校跡地活用事業プロポーザル選定委員会を設置いたしまして、現在、募集要項について協議中でございます。

続きまして、B地区(中高層住居・小規模商業用地)及びC地区(小方新駅周辺等住民代替用地)につきましては、新駅設置の進捗とセットでございまして、現状におきまして、進展はございません。

最後に、D地区(道の駅)につきましては、道の駅基本構想・基本計画策定等業務公募型プロポーザルを実施いたしまして、6月10日に受託予定者を決定いたしました。

以上が、進捗状況でございます。

次に、御質問のプロポーザルの結果等につきましてでございます。

初めに、今回の審査はD地区にどのような建物を建設するのかという提案を審査するコンペティション方式ではありません。事業者として情報収集や分析力などの能力を審査する、プロポーザル方式で事業者を選定したものでございます。

それでは、御質問の結果につきましては、(4)D地区(道の駅)②受託予定者のア、受託予定者名のとおり道の駅基本構想・基本計画策定等三井共同建設コンサルタント・香山建築研究所共同企業体でございます。

公募型プロポーザルには、2事業者、受託予定者とA社から応募がございました。

1次審査、書類審査になりますが、2次審査、ヒアリングでございます、この2つを経て最終結果としまして、イの審査結果を記載させていただいております。

受託予定者のほうが、1の会社状況、3の業務の実施体制、5の基本構想・基本計画、8の業務工程、9のヒアリングの項目におきまして、点数が高く、総合得点も受託事業者が243.01で、A社が240.15であり、結果として、受託予定者に決定したところでございます。

どちらも、8割以上の点数を獲得しておりまして、基本構想・基本計画を策定するパートナーとしては有能な事業者であったと思っております。

現在、契約に向けて、受託予定者と調整中でございます。

続きまして、③の今後の進め方でございます。

現状、6月時点では破線で囲んだ枠の部分、道の駅(スポーツ・体験型)という方向性しか示しておりませんので、今後具体的な施設の機能や規模なども含め、具体的な内容を決

定していくために前回説明をさせていただきましたが、庁内組織としまして、道の駅検討部会や小方地区のまちづくり事業推進会議、そして、庁議等でしっかりと論議をいたしまして、最終的には、令和7年度末までには、基本構想・基本計画を作成していければというふうに考えておるところでございます。

なお、庁内の論議の過程におきましては、受託予定者のサポートを受け、また、策定の過程では、市民等の意見を聞いた上で、しっかりと進めさせていただきたいというふうに思っております。

次に、御質問の道の駅、隣接する体育館施設のメインターゲットについてでございます。

今後、受託事業者と具体的な進め方を詰めていくこととなりますが、ターゲットとしては、基本的には地域住民と広域の観光客の両方をターゲット層として捉えて、調査・分析していくことになると考えております。

これらの調査・分析結果を踏まえまして、基本構想・基本計画に盛り込んでいくこととなります。

最後に、御質問のスポーツ・体験型の道の駅の基本構想・基本計画を策定するに当たり、市は、プロポーザルで決定した受託事業者に対して、どのように考え方や思いを伝えますか、についてでございます。

これまでの説明で、スポーツ・体験型の midpoint の意味がちょっと分かりづらいということのようで、大変申し訳ございませんでした。

2月の議員全員協議会において、寺岡議員から「スポーツ体験型の表記には midpoint があるのか、ないのか。」という御質問があった際に、「 midpoint はございます。」というふうに回答いたしました。

つまり、スポーツ・体験型ですので、スポーツと体験の2つをメインにした道の駅という意味合いでございました。

ちなみに、スポーツは、総合体育館と旧小方中学校体育館を統合することを想定したスポーツ施設としての機能ですが、現段階で、プロが使う規模とか、機能とか、そうでないか、どのような種目のスポーツを想定しているかは、現状で決まっていない状況でございます。

そして、体験は、様々あると思うんですが、例えば食体験、手すき和紙の伝統工芸体験、文化体験、子供の遊び体験、アウトドア体験、職業体験など幅広い体験機能が考えられますが、現状において、何の体験機能かは、決定はしておりません。

今後、小方地区のまちづくり基本構想を基に、体験機能を絞り込んでいくということになろうかと思っております。

また、あわせて、先月の特別委員会でも御質問がありました、農産物や海産物の販売所や飲食店などについてもしっかりと検討していきたいというふうに思っております。

今後、スポーツ・体験型の道の駅が魅力的な道の駅となるよう、庁内の道の駅検討部会、推進会議、庁議等で受託事業者のサポートを受けて可能性を探りまして、また協議して形をつくっていくことになるということを受託事業者にはしっかりとお伝えしたいというふうに考えております。

また、ポイントポイントで、市の方向性がある程度固まった段階で、市議会にも示していきたいと考えております。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ただいま、執行部からの説明及び答弁を伺いました。これに対して質問等ございましたら、お願いいたします。

藤川委員。

○藤川委員 御説明ありがとうございます。

受託予定者が決まって安心しておりますけれども、受託予定者について、もう少し知りたいと思いました。

受託予定者、特徴的なことや強みのような部分あると思うんですが、御紹介していただければと思います。

○小田上委員長 課長。

○三井企画財政課長 企画財政課長の三井です。

それでは、受託予定者をもう少し詳しくというところでございます。

選定委員が複数おられましたので受け止め方もばらばらだと思いますので、私の印象として感じたことをちょっと発言をさせていただいたらというふうに思っております。

その上で今回の受託予定者でございますが、点数見ていただきましても、会社状況及び実施体制が非常に良好であったということはもちろんでございますが、そのほか、道の駅は、通常の公共施設とは異なって、観光施設の性格が強いのものがございます。そのような観点から、今回の受託予定者には特徴的なものとして、設計事務所が共同企業体に参画しております。

今後、基本構想や基本計画を策定するに当たりまして、このエリア全体を捉まえて、配置や建物、利用者動線などの空間デザイン等の観点で、専門性が高い事業者であるということを感じております。

また、市内に共同企業体の協力企業がおられまして、今後市民であるとか、市内事業者等の意見をまとめるに当たりまして、地元をよく知る、より地元に着目した、連携した取組が期待できるのではないかというふうに思いました。

また、専門的な視点を求めるネットワークとしましても、大学やスポーツ専門家など幅広い視点で専門的な助言が得られる事業者でございました。

最後に、女性目線での視点を非常に大切にしている事業者でございました。女性が訪れたいような施設、かなり意識された事業者でございました。

先般、発表されました消滅可能性自治体の指標も20代、30代の女性の人口、こういったことの増加というのが、今後本市においても課題になろうかと思っております。

そういう意味でも、かなり興味深い視点での事業者であったというのが私の印象に残ったところでございます。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

他に、答弁の中でも結構ですし、報告の中からでも結構です。質問ございましたら、どうぞ。

中野委員。

○中野委員 御説明いただきありがとうございます。

この香山建築研究所、僕も拝見させていただいて、ずっとこの小方まちづくりの議員全員協議会等でも、空間デザインというところをすごく私自身、重要視してまして、実際拝見させていただいて、グッドデザイン賞を取られたりというところで、非常に魅力的な施設が出るなというところで、すごく本当に期待感が高まりました。いい形で進めばいいなというふうに本当に思っております。

そういったところ、もちろんプロポーザルの段階で、過去の建築事例とかコンセプトっていうところも見られて、いろいろ審査されたっていうところですか。その建物的なものであったりっていうところで、評価点というか、そこら辺がどういうところの思いだったのかなというのをちょっと聞きたかったです。お願いします。

○小田上委員長 課長補佐。

○本山企画財政課課長補佐兼企画係長 企画財政課企画係長の本山です。

出された提案書の中には、香山建築研究所がこれまで取り扱った様々な施設も例として出されておりましたので、委員の皆さんとしては、それも参考として審査されたと思っております。

以上です。

○小田上委員長 総務部長。

○三原総務部長 資料のイのところ審査結果というのがありますが、業務実績ということで、会社が今までやってきたことというものは出されてます。

ここに関しては、何点ということですので、直接的にデザインがどうであるとか、そういったところまでは、考慮されてません。これは、先ほど言いましたように、デザインコンペとかいわれるコンペティション方式ではございませんので、そういったところまでは、カウントはしてません。

ただ、資料の下のほうの5から8のあたりですよ、この辺りでいろいろな今までやったところを出してもらいながらとかですね、自由に発言をされるわけですけど、そういうときに香山建築研究所の発言というものは、大いに参考にさせていただいたということです。

以上です。

○小田上委員長 大丈夫ですかね。他に質疑ございませんか。

豊川委員。

○豊川委員 ありがとうございます。我々、審査する権限がないので、もう全て執行部の方にお任せして、点数も見させていただいたんで、私は、この件に関しては何もないんですが、1点ですね、市民等の意見をお聞きするというのがありましたけれども、これはどのように意見を聞かれようと思っておるのですか。よろしくをお願いします。

○小田上委員長 課長。

○三井企画財政課長 ありがとうございます。市民からの意見もこれから受託予定者として詰めていきますので、現状では、ちょっとまだ未定ということで、よろしくお願いたいと思います。

以上です。

○小田上委員長 よろしいですか。

豊川委員。

○豊川委員 ありがとうございます。私が市民の意見を聞いてくださって言うてるのは、仮に、令和12年から13年の間に道の駅ができたとして、今後道の駅がうまくいかなかったときに、当時の議会はどういうふうに話してたのかとか、ちゃんと話をしたのかって言われるのが、ちょっと嫌なので、こういう市民の意見っていうのは、やっぱり徹底的に聞いてもらったほうが、私はいいなと思います。ですので、その辺りはちょっと真剣によろしくお願いたします。提案です。

○小田上委員長 もちろん、議会として議決をしますんで、議会にも、もちろんいろいろ責任はあろうと思います。なので、特別委員会ですっかり研究しますので、議会にも責任がありますので、御協力をよろしくお願いたします。

他にございますか。

小出委員。

○小出委員 プロポーザルで、選考の他社と非常に均衡した点数であったということを押見します。太線よりも上の会社状況であるとか、業務実績とかっていうのは、企業規模によるところが多いと思いますので、今回、選考された企業のほうが、企業規模や実績がある程度多かったのかなというふうに思うんですが、ちょっと気になるのは、下の民間活力導入可能性であるとか、独自提案等については、他社A社のほうが、点数が多いように見えるんですが、その辺は問題にはならなかったでしょうか。総合点でいけば、当然、この今回の企業ということになるんでしょうが、その辺はどのようにお考えかを教えてください。

○小田上委員長 総務部長。

○三原総務部長 先ほど、企画財政課長からもありましたように、どちらの事業者さんも8割以上の点を取っておられるということで、大変レベルの高いプレゼンテーションをいただいた、提案をいただいたと思っております。

実際に募集をかけたときに、1から4までの数字と5から9までの数字で、どちらに重きを置きますとか、そういうことは言ってませんので、ここについてはこのまま点数を足したもので、総合点の高いところを選ぶと、これは、問題ないことだと思います。

また、今気にされたとこなんですが、そうは言っても僅差なので、そんなにそこは、問題にはしておりません。

以上です。

○小田上委員長 よろしいですか。

他にございますか。よろしいですか。

副委員長、副議長、何かありましたら。

副議長。

○寺岡副議長　そうですね、コンサルタントが今からどう動くのかっていうのは注目はして  
いきたいところではあるんですが、今までの議会の中からの提案であったりとか、小方ま  
ちづくり基本構想をつくる上での市民ワークショップの意見とか、私たちが今から新しく  
出す意見も、聞いてほしいところではあるんですが、ここまでに至った背景として、そう  
いった議員なり、市民なりの意見を酌んできたものがあるじゃないですか。そこら辺を、  
置いてけぼりにしないような、そういったお願いというのをコンサルタントにはやってい  
ただきたいですし、幅広に広い地域の中で見ながら、いろいろ企画していってほしいとい  
んですが、そういうのは、しっかり基本構想をまず、土台としてやっていっていただけ  
るというふうをお願いされるというふうに理解してよろしいでしょうか。

○小田上委員長　課長。

○三井企画財政課長　はい、そのとおりでございます。小方まちづくり基本構想を基本とし  
て、大竹市全体の活性化につながるようにですね、しっかりコンサルタントにはお伝えし  
たいと思います。

　　以上です。

○小田上委員長　副議長。

○寺岡副議長　ということであれば、スポーツと体験型というのも、基本構想の中にヒント  
が隠されているというふうに、今の時点、受け止めさせていただきたいと思います。よろ  
しいですかね。

○小田上委員長　課長。

○三井企画財政課長　はい、そのとおりです。

　　以上です。

○小田上委員長　よろしいですか。他にございませんか。

　　副委員長。

○細川委員　先ほど、課長が、個人的な印象ですがと、前置きをして言われた幾つか、今回  
の受託予定者の魅力的なところというか、お話しいただきました。

　　ですが、評価においては、部長がすごく客観的な数字で総合点で出しましたって言われ  
たんですけど、課長がその期待している空間デザインのすばらしさとか、地元の密着だっ  
たり、出てくるんじゃないかとか、女性の視線をすごく大事にしてるかとか、そこら辺は  
今後に生かされていくというふうに考えてもよろしいでしょうか。

○小田上委員長　総務部長。

○三原総務部長　再三申し上げてますが、プロポーザルです。そういう精神を持って、今後、  
事業をしていくということをお伺いしたわけですから、そこがぶれることはない、それ  
は考えております。

○小田上委員長　よろしいですか。

　　委員長を変わっていただいてもいいですか。

　　委員長を交代します。

○細川副委員長　小田上委員。

○小田上委員　すいません、1点だけですね。今回、道の駅に関する基本構想・基本計画つ

ていうところでの業者選定です。

募集要項の中に、晴海臨海公園とか、全体的なことも踏まえてとあったと思います。これが、現段階でなかなか触れにくいと思いますが、それも残ってるという考え方でいいんですかね。晴海臨海公園全体を踏まえた考え方をしてもらえる可能性があるというところ、すいません、1点だけです。

○細川副委員長 企画財政課長。

○三井企画財政課長 仕様書のほうにも、晴海臨海公園も含めて、一体として考えるという提案を求めていますので、その考え方は、そのまま残っております。

以上です。

○小田上委員長 委員長戻ります。他に質疑ございませんかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 それでは、質疑なしと認めます。

以上で、日程第1、執行部からの報告及び執行部への質問事項についてを終了いたします。

ここからは、委員のみの協議となりますので、執行部の方は御退席いただいて構いません。ありがとうございました。

続きまして、日程第2、調査研究についてを議題といたしますが、暫時休憩いたします。

11時34分 休憩

11時37分 再開

○小田上委員長 休憩前に引き続き、会議を再開します。

日程2、調査研究についてを議題としております。

以前の特別委員会で、調査研究を行っていくということで、講師の選定であったり、事例の調査、こういう場所に行っていくんじゃないかとかってところの声が出ておりましたので、具体的なものの紹介と提案をしていただけたらなということでお願いをしておりました。

実際に講師を呼ぶとなれば、予算の関係だったり、視察に行くとなれば、そこでも日程の関係だったりとかありますので、そこを踏まえながら後々やっていけたらと思います。

12時まで一旦終わって、いずれにしてもこの後、議会のあり方調査研究特別委員会もございますので、午後からいずれの特別委員会も入るということで、皆さん、午後からも続けてやってもよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田上委員長 議会報告会の班長会議が、13時から予定されていますので、それが終了後ということでお願いしたいと思います。そこまで長くならないですか、班長会議。ちょっと分かんないけど。13時40分をめぐりにしときましましょうか。終了後とかのほうがいいですか。

副主任。

○山田副主任 すいません、班長会議が何時に終わるかは、その内容次第でちょっと分からないので、終了後にしていただくほうが、時間は決めないほうがいいのかと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。では、すいません、時間が見えづらくて申し訳な



いですが、御協力よろしく願いいたします。

それでは、サイドブックスに事務局に掲載してもらってます、行き先とか講師の選定、この表の上から順番に、プレゼンというか、こういう思いでというのを発表していただけたらなと思うんですが、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 では、1番は、豊川委員です。

豊川委員。

○豊川委員 私のほうなんですけど、道の駅萩しーまーとの駅長の山口氏という方なんですけど、私、この方を全く知りません。全く知らない人にしゃべってもらったほうが新鮮かなと思いました。

萩市の倫理法人会のモーニングセミナーのチラシを見たんですけども、テーマとして、多機能拠点施設としての活用というふうに書かれてたので、道の駅に付加価値をつけていただきたいなと思うところがあって、こちらの講師に頼んだらよいのではないかなと思いました。

こちらのほう、道の駅萩しーまーとなんですけど、萩まで行ってもそんなに遠くはないので、いいのではないかなとも思いました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

では、次。

藤川委員、お願いします。

○藤川委員 パソコンで東和町、周防大島の道の駅を見ながら聞いていただければと思うんですけども、私、ここによく行くんですね。昔は、そこまでにぎやかでなかった。ここ数年の間に店舗数も増えてるんです。外に3坪ぐらいのテナントが、10件ぐらい急にできて、いろんなテナントを入れてみたり、あと海産物の飲食店もレストランが1つだけだったのが、テナントが増えて、海産物を外で食べられるんですけどね、そういうコーナーも増えておりました。もちろん、産地直売もやっております。

また、なぜ、ここを選んだかという、隣にグラウンドがあるんですね。それが、大竹市の晴海臨海公園とリンクするのかな。そこでは野球やサッカーの大会など、その方々が道の駅に来られて、飲食したり、お土産を買ったりするのをよく見てます。

それと、あと、ここは大島を1周するサイクリングっていうんですか、リレーか、ちょっと詳しく分からないんですけど、そういうイベントも道の駅をスタートでやっているのも確認しています。それは、大竹市でいえば、リレーマラソンとリンクするのかなと。何かリンクするところが、多いから、ちょっと今発展しているように見えてるんですね。その辺の発展していったら、この経緯とか、理由とか、どういう数字を出しているのか、そういうのをちょっと調査したいなと思い、推薦しようと思いました。

だからといって、これは、誰が来てくれるとかいうのまでは調べてません。

はい、以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

では、次は小出委員。

○小出委員 栃木県茂木町長の古口達也さんです。

有名な方で、道の駅については第一人者ですので御存じの方もいらっしゃるかと思うんですが、貼り付けてるのは、古口町長の過去の講演会記録の抜粋が載っていると思います。

難点は、栃木県ですので行くにしても遠いし、呼ぶにしてもちょっと遠いのかなというふうな、おまけに立場が町長ですので、というところはあるんですが、ただ、町村議会であるとか、道の駅のシンポジウムとかには頻繁に登場していらっしゃる方ですので、可能性はないわけではないのかなというふうに思います。

茂木町というのが、人口が1万5,000人程度です。場所柄としては中山間地域ですので、場所とであるとか、あるいは人口を言い訳にできないところの中で、道の駅で成功しているところというのは非常に参考になるところが多いのではないかなというふうに思います。

栃木県で、一番最初の道の駅っていうことらしいです。

現在、職員が100名程度、年間に10億円近くの売上げを上げているというところで、この方の経営理念という、この第三セクターなんですが、その代表にこの町長自らが立っていらっしゃるというところなんです。

民間任せにしないっていうところで、行政がとにかく責任を持って運営からしているというところが参考になるのではないかなというふうに思います。

道の駅の目的は何かっていうと、地域の活性化であるというふうにご覧の方はおっしゃっていらして、地域の活性化とは何かというところ、お金をもうけることというふうにおっしゃっています。

じゃあ、地域活性化の主人公は誰かというところ、行政職員であるというふうにご覧に明確にお答えになられる方でありまして、これ、過去の講演会記録とかほかのものをみるとそういうものもあるんですが、行政職員がとにかく町民をお客さんとしてもてなす心から、喜ばす心からというふうな先頭を切って経営していかないと、道の駅は成功しないよっていうようなことを講演会ではしゃべられている方です。

というところで非常に興味があります。

○小田上委員長 ありがとうございます。

それでは、次は、末広委員。

○末広委員 上から、スポーツアクティベーションひろしま、もうこれ、広島県庁のスポーツ振興課みたいなところの組織の1つではあるんですけども、このアドバイザリーだっけにお話聞けば、広島の中でこの地域がどういうスポーツに力を入れてて、例えばこういう施設が足りないとか、広島県の端にはこういうスポーツの施設があったらいいよねってような話がしていただけるんじゃないかなと思って、ちょっとここを選ばせていただいています。

2つ目はその全国版ですね、どちらかというところ、スポーツ庁のほうなんで、こっちはもう国のほうの団体です。

6、7番目、廿日市市と岩国市を上げさせていただいてるんですけども、ちょっとこの

前、廿日市市の開発の話聞いて、今、インターの出たところ、大きな開発されてますけども、あそこで商業施設とかもちろん、いろいろつくられていくところなので。

あと廿日市市、スポーツも結構力入れられてて、女子の野球チームとか、これは最近のほうですけど、結構しっかりした球場とか用意されてやられてるので、そういったところの方針を聞いてもいいんじゃないかなと思って。競争を避けるためってありますけども、共存共栄っていう意味で聞いてもいいのかなと思って。

岩国市も一緒なんですけども、つい3日か4日前の岩国市議会で、スケートボード場が新しく昭和町に、今あるのが移設するみたいな感じで造られるっていう話も聞いて、岩国市かなり人気な体育館もありますので、そういう意味では運営方法とかも、かなり参考になるんじゃないかなと思って、上げさせていただきました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

では、副委員長。

○細川委員 私のほうは、何かあんまり、道の駅の実際のあれとかいうのはあんまり考えなかったんですけども、今後、2年か3年かけて民間活力導入の検討をしていくということで、議会としてもその辺の基礎知識をしっかり身につけておいたほうがいいんじゃないかという思いで提案させていただきました。

見ていただいたとおりでなんですけども、講師は、現在、国土交通省のPPPサポーター、何人もいらっしゃるんですけど、民間の方とか、学識経験者とか、金融関係の方とか、かなり大勢おられるんですけど、その中のお一人で、広島に在住でいらっしゃるんで、来ていただきやすいかなと思いました。

この方は、道の駅に関しても第1号から関わってるとか、PFI法を日本でつくったときにも関わっておられるということで、基本的なことをしっかりと教えていただけるのではないかと期待でございます。

その辺を議会としても知識を身につけた上で、今後の方向性を決めていくときに、基本的な力になるんじゃないかと思いました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

では、中野委員。

○中野委員 よろしくお願ひします。

すいません、調査研究の表の中には、2つの記載なんですけど、実際は資料で3案出させていただいております。

すいません、ちょっと今、休憩中にもお話しさせていただいたんですけど、今の執行部の説明がかなりスケールが大きいなというところで、自分が提案した案っていうのが、かなり小さくまとまってしまったなっていうのが、率直な意見でした。

私は、まず1つは、晴海臨海公園の大型遊具っていうところの雨天どうするのか、子供たちを呼びたいっていうようなお話もあったので、雨天に子供たちが室内でっていうところでにぎわっているところ、人気のあるところを1つの視点として考えていました。

もう1つは、道の駅っていうのは、やっぱりいろいろ年数重ねて、機能とか重要視されるポイントっていうところが違うと思いますので、比較的新しいものっていうところで2つ今、重点的に置いて、かつ行政職員の担当者の方、その経緯が分かる方っていうところで各3案お伺いしたところです。

各担当課の職員の皆さんに、ちょっとお電話させていただいて、Z o o mでの質疑応答というの、対応ができますっていうので、お話を伺っております。

というところで、率直に、前回の特別委員会でも言ったんですけど、これから道の駅ができていく過程で何を議論していかなければいけないか、何を知っておかなければいけないかっていう、その過程・プロセスっていうところの解説をしていただくためには、この行政職員の皆様、担当された方に生の声を聞くっていうことが大切なのかなっていうところで、今この3案を提出させていただいているところです。

すいません、当初の提案としてはそういった思いで提案しようと思って、この3案出させていただきました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。提出いただいた意見は以上です。

ほかに、先ほど執行部から説明があって、こういう方法、やり方がいいんじゃないかみたいなものが、もしあれば発言していただいても構いませんが、ございますか。

特にはないですね。

それでは、今この出していた中から、どういうふうに取り組をしていこうかというところなんですけど、実際に見に行くのも一つですし、中野委員の提案いただいたもののようにZ o o mで話を聞くっていうのも一つだと思います。

ただ、講師とかZ o o m対応とかっていうふうになると、事務局を通じて日程の調整等も必要になってくるので、少し余裕を持って調整はしていかないといけないかなと思います。

いかがですか、質問でも結構です、出された方に対しての質問でもいいですし、こういう取組がいいんじゃないかという意見ありましたら、今後の調査の進め方を伺いたと思います。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 意見でも大丈夫ですか。

○小田上委員長 大丈夫です。

○中野委員 ありがとうございます。各委員提出していただいたもので、私がいいなと思ったのが、細川委員と小出委員が提出されたところの案がいいなというふうに思いました。

できるかどうかも含めてですが、細川委員が提出されたところで、事前にこういうものなんだって勉強して、小出委員がおっしゃる、栃木県に視察に行くっていう形で、勉強と視察っていうところでセットで考えたら面白いのかなっていうふうに思いました。

すいません、自分の提案じゃなくて、人の提案がいいでもいいですよ。

○小田上委員長 構わないです。

○中野委員 はい。僕は、ちょっとこの各案で見た中で、聞いてみたいなというふうに思い

ました。

以上です。

○小田上委員長 このような意見が出ました。

ほかにございますか。

副議長も、もしお知恵があつたり、議長もお知恵があれば、発言していただいて構いませんので。

副議長。

○寺岡副議長 末広委員がおっしゃった5番のスポーツ庁のアドバイザーのほうは、学校のクラブ活動の地域移行がメインなのか、今、僕初めて見たんで、スポーツ庁のホームページ見たらそんな感じだけど、末広委員としては、中学校の皆さん方が活躍というか、活動できるような場所も踏まえた上でこういった提案先を出されておるといふ、そうですね。

全国的なスポーツ推進、その辺り、この場で初めて聞いた意見なので、そういった御意思があるのかどうか、ちょっと聞いておきたいんですが。

○小田上委員長 末広委員。

○末広委員 正直言うとそこまで深く考えてなかったっていうのもあるんですけども、全国的な、そういった取組だったら国に聞くのが早いかなっていうところもあって、あと、子供に向けたっていうところも、そこも含めて聞いてみたかったのでここを選ばせていただいたんですけど、スポーツ庁なので多分範囲が広いと思うので、ここじゃなくても、とは思ってはいました。

以上です。

○小田上委員長 今、講師をお呼びして、勉強をして、その後に実際に視察に行ったらどうかっていう、具体的な取り組み方の意見としてはこうですが、一委員として提案なんですけども、今、執行部のほうから道の駅にプラスアルファの要素がかなり強いようなイメージでの説明を受けました。

ただ、核となるのは、核となるかどうかは分かんないですが、やる方向で進んでるのは道の駅ですよ。

なので、例えばなんですけど、中野委員や豊川委員、藤川委員、小出委員も上げていただいた実際の道の駅を見に行くと、どういうニーズを図ってきたのかとか、どういうイベントを打ってきたのか、ちょっとうまくいかないなっていうことからどう解消していったのかっていう取組も実際に知っておくべきかなとは思うんですね。

なので、例えばですけども、右と左に委員が3名ずつおられるので委員長と副委員長で2班つくって、それぞれ道の駅を見に行く。担当の方に話を聞いて、調査してきて、こういう問題をやってましたとか、こういう取組をしてました。実際に取り組んでる時の職員の関わり方はこうですか、というのを何件か視察してきて、それをお互いに発表し合って、そういうニーズのつかみ方とか、取組の仕方、押さえておかないといけないところ、道の駅として必要なのってこういうところだよなっていう勉強も一つなのかなと思ったんですが。

ただ、そこに踏まえての体験型っていうのは、大竹市独自のものなので、そこをどう踏まえるかっていうのもありますが、執行部の説明でもありました、一委員の意見なので、ごめんなさいね、長くなって。道の駅の基本構想・基本計画は、市民の方の意見とか聞きながら、令和7年度末の完成を目指しているということなので、実際のPFIやDBOとか、何かいろいろ方式ありますけど、民間活用の方式っていうのは、まだ早いのかなと思ったりします。実際に執行部から提案がありそう、それが固まりそうな方向のときに、本当にそれでいいのかっていう、副委員長が言われたところにもはまると思うんですけど、本当にこの方法でいいのかっていう審査していく過程で必要な知識なのかなと思ったりもするので、まず現場見ていくってのも一つなのかなと思ったりもしました。

一委員の意見でした。

中野委員。

○中野委員 そうですね、やっぱり当初からこの委員会で僕も発言させてもらってるんですけど、やっぱり引き出しを増やす、知識を増やすっていうところがすごく大切だなというふうに思いました。

なので、さっき視察を提案させてもらったんですけど、1か所に大人数っていうよりかは、もう2班、僕は3班ぐらいに分けてもいいんじゃないかなっていうふうには思ってます。

その中で、特別委員会の中で、例えばですけど、グループ分かれてこういった議題が上がってる、やっぱりこれ共通項だから、この議論っていうのは加速させていかないといけないよねっていうところの引き出しを増やすという意味で言えば、グループ分かれての視察っていうのは、私はいいなというふうに思いました。

なので、全員で一緒に1か所に行くっていう必要もないのかな。来年6月までっていう任期も含めれば複数班に分かれて、実際に視察に行くっていうところは、いいなというふうに思いました。

以上です。

○小田上委員長 実際に基本構想・基本計画をつくっていく中身に反映させるものとして具体的な機能ももちろんそうなんですけど、考え方とか、方向みたいなものも、この12月までに何か提案できるものがあればいいかなと。そこの取りかかりとしては、やっぱり見に行くことは皆さん個人でされてると思うんですね、道の駅行かれて。ただ、職員に運営のこととかを聞くとか、しっかり調査をするっていうことまでは、なかなか個人レベルだと難しいことも多いかもしれません。そういうところを蓄積していく期間が、いつ、じゃあ蓄積できるのかといたら、この段階しかないと思うんですね。

なので、今すぐじゃなくて、お昼を挟みますので、進め方等も皆さん、少し検討していただいて、また、午後から再開したいと思いますけど、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 では、暫時休憩をいたします。

議会報告会の班長会議が終了次第再開いたします。

12時00分 休憩

14時10分 再開

○小田上委員長 それでは、休憩前に引き続き、小方まちづくり特別委員会を再開します。

先ほど、午前中、皆さんの意見を出していただいて、これからの取り組み方というところで、少し意見をいただいたところでした。

意見をいただいている途中でしたので、こういうところがあるよと、お昼をまたいで、少し整理がついた方もおられるかもしれません。

一旦整理しておきますと、中野委員のほうから、細川委員の提案があったものを勉強して、その後、小出委員の案のところの視察もいいんじゃないかというような御意見、そして、私の一委員の意見として、班分けして、道の駅の調査をしていくってのも、一つじゃないかというような意見を出させていただきました。

他にございますか、意見。

末広委員。

○末広委員 中野委員のも、委員長がおっしゃってることも似たような感じなので、行く前提でPFIの勉強会はしても、その分、担当課にお話しするのは話が深まると思うんで、その勉強会をやってから現地に行くのは全然ありなんじゃないかなと思います。

以上です。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 すみません、先ほどのところで、昼にもう一回考えて、補足なんですけど、細川委員が提出いただいたということは、全体に関わる基本的なことのなのかなと思いますので、ここを勉強した上で、さっきの委員長、複数の班ということで、班に分かれて、どこの視察に行くのかっていうところで、班で打合せをして、その中の一つに例えば、小出委員が出されたところは、やっぱり、うちの班、ここ行こうよっていうところの選択肢にもできるのかな。

ただ、全体で勉強する事案としては、細川委員が提出されたこの基本っていうところが、いいのかな、その勉強した上で、視察、班を2つに分ける。その中で、その班でどこに行くかっていうところでもいいのかなというふうに思いました。今日、どこまで決めるかですけど、方向性としてはそういう形でいいのかなと思いました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

ぱっと出てこないようであればまとめますが、今出ている意見からすると、ひとまず、前提条件の基礎知識としての勉強会をしたいという意見がありました。その後に視察という方法があるんじゃないかというところでした。

特別委員会で決めたことは、そのとおりにやるということにはなりますので、皆さんの御意見でなんですけども、御留意いただきたい点がございます。予算の面です。

常任委員会と違ってですね、視察の予算というのは特別組んでるものではなくて、皆さん、それぞれ特別委員会に所属されてると思います。所属されている委員それぞれに視察とか費用弁償、日当等の予算はあるんですけども、今、特別委員会が3つ、基地周辺対策特別委員会、議会のあり方調査研究特別委員会、小方まちづくり特別委員会とあります。

それに何個、所属してようが、1人決まった金額変わらないので、ほかの特別委員会でも使うことがあるというところで限りがあります。講師を呼ぶというところでも、議会のほうで議長主導で講師を呼んで勉強会とかっていうところでの予算組みはされてるようですが、なかなか直接の予算が見てもらえない状況というのがあります。

提案なんですけども、この講師、どなたか招いて基礎知識を得たいというのはすごく分かります。なので、細川副委員長から提案いただいた講師の方含めて、あとは公共の方、県とか国の方であれば、費用を抑えられるっていうところもあるので、そこもちょっと踏まえながら、検討して行って、基礎知識をつけるっていうことでもよろしいですか。もしなれば、今のこの方だけになってますが。

なので、その際には、例えばですが、中野委員が調べてきてくださった方っていうのも一つあるかもしれないですし。

なので、すいません、お金のことで調査ができないとかっていうのは避けたいんですが、実際、本当に視察に行ってみたいよねと。今、栃木県のほうとか出てますけども、絶対見たいというもののためには残しておかないといけないっていうのもあると思います。

ですので、中野委員が紹介しての方とかに、まずZoom等で話を聞いて、基礎知識を持った上で視察に行くとかっていうのも一つかなと思います。

ちょっとその面で委員の皆さんが、まず、この場で下調べ、勉強、講師からの勉強を受けた上での視察っていう流れは組みつつも、講師とかっていうところの選定は委員長・副委員長に一任いただけたらなと思うんですが、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 はい、よろしいですかね。

であれば、流れとしては、今、提案いただいて、まず講師から聞いて、その後、視察に行くというような流れでよろしいですか。ほかに提案ございます。

小出委員。

○小出委員 近場の視察でしたら、自前の車とかで分かれていくことで経費は削減できると思うんですよね。近場を班2つぐらいに分かれて情報収集してきて、遠方の、私が提案した栃木県であるとかっていうようなところは、まとまっていくことによって経費が、バスをチャーターしたりとかっていうことであれば、経費削減できる部分もあるのかなというふうに思いますし、遠方であれば、何ですか、皆さん一緒に見たほうが良いような情報もあるのかなというふうに思うんですが、それってどうでしょうかね。

○小田上委員長 ありがとうございます。皆さん、栃木県まで行ったら、片道1人幾らかかるか、大体想像つきますか。正直言うと、小方まちづくり特別委員会だけでやっていいんだったら、できるか、できないか、どうなんだろうか、足りるかどうかっていうところだと思います。今、小出委員が提案くださった、近場のところっていうのはすごくいいのかなと思います。

例えばなんですけども、どなたか班分けをして、その班ごとに近場、A班は山口県を中心とか、B班は広島県を中心とかっていうところで、どなたかの車に乗り合わせていくということであれば、費用の支出は最低限に抑えられてできるのかなというふうに思っ



たりしますので、末広委員の提案されてた、近隣市町とかぶらないとかっていうのも一つだと思っんですね。

なので、どういう特徴を持っているものが周りに多いのか、では、ない特徴でニーズがありそうなものはこういうのかなってところを見つけるためにも、近隣を視察することに意味がないとは思えないので、そういうやり方も一つかなというふうには考えました。

実際にどう進めていくかっていうのは、たたき台みたいなどは考えたほうがいいのかと思うので、提案させてもらえたらと思います。そこは考えてきます。

ただ、講師の選定をして、講師にお願いをするんですが、それを待っていても時間がかかってしょうがないということになろうと思います。同時並行でいいのかなと思います。

なので、どうしましょう、今、班を2つ、3つとありましたが、経費のところとか、後は、実際に道の駅に行き話を聞くとすれば、ただ行くだけじゃ、それは視察にならないので、担当の方に出てきていただいて話を聞いてという作業をしていただきたいので、事務局を通すこととなります。事務局のマンパワーにも限りがありますので、班を増やし過ぎると、相手先との交渉というのは時間かかるかなと、難しいかなと思いますので、2班程度でいかがかなと思いますが、よろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 よろしいですか。じゃあ、講師の選定をしつつ、それもやりながら、視察も同時並行で進めていきましょと。最初に行ったところと、後で行ったところで勉強の成果で濃淡が出るっていうのは、いずれのタイミングでもあろうと思いますので、それをお願いします。

では、講師の選定とスケジュール感は、また後ほど、後日お示しするとして、視察なんですけども、班を分けないといけないかなと思います。班分けをどのようにするかっていうところなんですけど、一旦休憩をして、この中で決めて、方向性だけ見つけて再開して、決定したいと思いますがよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 暫時休憩します。

14時18分 休憩

14時21分 再開

○小田上委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

休憩中に班分けの協議をしまして、2班に分けるということで決めたいと思いますが、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 はい。2班で、まず、チーフとして末広委員の班、中野委員の班というところで決めていきたいと思います。

残りの方の決め方はくじを行います。くじの決め方は奇数が末広委員、偶数が中野委員の班に入るということで、引き終わった後に委員長と副委員長も奇数・偶数どちらかのくじを引きます。まず、それ以外の委員の方、くじ引をお願いします。席順でよろしいですね。引いたくじは持っておいて、後で発表しましょう。

[委員、くじ引]

○小田上委員長 1番の方。

○藤川委員 はい。

○小田上委員長 藤川委員。

2番の方。

○小出委員 はい。

○小田上委員長 小出委員。

3番の方。

○豊川委員 はい。

○小田上委員長 豊川委員。

4番の方。

○中川委員 はい。

○小田上委員長 中川委員。

であれば、1番と3番、藤川委員と豊川委員が末広チーフの班ですね。小出委員、中川委員が中野チーフの班です。

では、正副委員長がどちらかにいたほうが良いと思うので、くじ引をします。

[正副委員長、くじ引]

○小田上委員長 1番が私です。副委員長2番で間違いないですね。

○細川副委員長 大丈夫です。

○小田上委員長 はい、班分けが決まりました。

末広チーフの班に藤川委員、豊川委員、私の4名、中野チーフの班に小出委員中川委員、細川副委員長ということよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 それでは、この班でひとまず調査をしていくという流れにしたいと思えます。基本的に近場でとは思ってます。また、この方法についてもたたき台を提案させていただけたらと思えますので、まず、やってみてほしいのが、近隣のところの出し方ですけども、今、ぱっと思いつくのが、近隣だと山口方面、広島方面という分け方かなと思うんですが、ひとまず、その方向だけ分かっておいたほうが出しやすいかなと思うんですけども、そういう分け方がいいですか。それとも、もっと違うところがいいとか、提案があれば。

中川委員。

○中川委員 すいません、さっきから、ずっと疑問に思ってることを言っていていいですか。

○小田上委員長 はい、どうぞ。

○中川委員 この視察の意味ってどういうところにあるのか思ってます。

つまり、ここでまとめたことを提案して、それが通ることになるのか、それとも、執行部から上がってきたのを私たちが、そこはそうじゃないよ、こうなんだよとか言ってひっくり返るのか、そこまでできるのかどうか。何か視察の意味っていうのは、そこまで私たちの委員会の持つ重要性があるのかというのが、ずっと疑問なんですよ。

だから、私たちがこうやって視察して、道の駅はこうあるべきだというものをまとめて出したものが執行部に通るのか、あるいは、執行部から来たものをひっくり返すことはできるのか、そういうことがちょっと、ただ行くだけで、行って、ああ、よかった、こういうところがいいよ、ああいうところがいいよって終わるのか。執行部の案と全然違うことが出てきて、案が出てきて、それで、もうしようがないねってなるのか。その辺がちょっと疑問なんです。それだけの意味がこの視察にあるのかなと思ってるんで、どうなんでしょう。覆すようなことを言ってすいません。

○小田上委員長 視察の意味ですけども、ごめんなさい、伝わってると勝手に思ってた僕の落ち度かなと思います。この視察をするに当たって、次にまとめようと思ってたんですけど、どういうニーズの取り方をしてるのか、この地域でこういう事例があったんでそういう取り組み方をしましたとか、成功例、もちろん課題、失敗例やニーズの酌み取り方、問題のを見つけ方っていうところとかをしっかりと見てきていただいて、では、大竹市だとかいうニーズの酌み取り方があるんじゃないかとか、あとはこういう特徴を持つてるところがいっぱいあるから、それだと差別化できないんじゃないかとかっていうところをもって、基本構想・基本計画ができるまでの間にできるのは、こういう考え方をしたほうがいいんじゃないかなとか、ニーズはこういうところにあると思うし、こういうものだど似通ったものになりがちだから、やめたほうがいいんじゃないかとかっていうところまで提案できればすごく意味のあることかなと思っておりました。

その中を詰めていって、皆さんの同意を得られれば、細かい機能についても触れるところがあるかもしれませんが、細かい機能については、私たちの任期はちょっと短いですが、その以降の委員会の方々に資料となるものを残せられたらと思ってますし、実際に基本構想・基本計画が出来上がった後に具体案が出てきたときに、知っておかないといけないことってのはたくさんあると思います。

ただ、まだ方向性が決まっておらず、午前中に説明を受けた中で大きく広がりそうだなとなったところで、今、道の駅に意味があるのかというお気持ちが分からないこともないので、道の駅に限る必要はないかなと思いました。官民連携で運営してる施設というところも見ていただいてというのも一つかなと思いましたので、その辺りは、また取組の仕方っていうところについて、たたき台を作ったときにこういう取組が有効なんじゃないかと、視察に意味を持たせるのはこういう取組をしたほうがいいんじゃないかという御意見もいただけたらなと思います。

これに加えて、何か皆さんがこういう意味があるんじゃないかというところがあれば、いただけたらと思えますし、ほかに取り組み方があればお願いします。

末広委員。

○末広委員 私はそんな難しいことを考えてなくて、委員会としてもそうですけど、議員個人としても、議案を通すか、通さないかっていうところの判断材料というか、そのための勉強だと思ってるので、それでいいんじゃないかなと思ったりします。

以上です。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。僕もこの視察の必要性っていうところでいうと、各論、例えば、この道の駅、この施設があるからこれいいよねっていう提案じゃないと思うんですよね。何でその施設を選んだのか、そのコンセプトが例えば、稼ぐなのか、観光なのかっていう、その根拠裏づけっていうところを調査した上で、やっぱりこのニーズ、このテーマって欠かせないよね、大竹市にもこういうテーマが要りますよねっていうところの、各論ではなくて、その前の総論の部分なのかなというところで思っていました。

なので、人気の道の駅が、なぜ人気なのか、どういう形で決まったのかプロセスをこの視察で担当の職員の方であつたりに聞けたらいいな。それを共有できて、やっぱりここここって道の駅、場所とかコンセプト違うけど、この部分ってやっぱり共通だよっていうようなところが見つけることができれば、前提知識として執行部に最後に提出するとき、この部分って大事ですよ、この部分どう考えてますかっていうところなのかなという認識でいて、今回、その提案をした、講師の提案をしたっていうつもりでいました。

なので、どこに行くのかも大事ですけど、行った先で何を学ぶかっていうところは、そういうところなのかなというふうに僕自身認識しておりました。

以上です。

○小田上委員長 小出委員。

○小出委員 皆さんと同じような意見で、行くからには道の駅に行って、ただその現場だけを見るのではなくて、少なくとも管理責任者であるとか、あるいは、行政の方の話を聞いたりとか、あるいは、もし可能であればそこに議会がどういうふうな形で関わっていったとか、そういったところまで聞いた上での調査が必要かなというふうに思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。

こういう、基本的な質問っていうのをさせていただくことによって、どういう取組をするべきかっていうのが見えてくると思うんですね。なので、疑問に思ったときは、しっかりと解消していただいて、上げていただいて、考え方を同じ方向でやっていきたいと思いますので、中川委員もありがとうございました。いかがですか。

中川委員

○中川委員 だから、こういう道の駅があつて、こういうところを見に行きたいということならば分かります。ただ、あっちこっちじゃなくて、大竹市にこういうのが必要だねとか、あるとか、そういうふうなことを考えて、ただ見に行きましょうというのが、ちょっとよく分かんなかったんで、すいません、そういうことです。

○小田上委員長 ありがとうございます。なので、視察先もちょっと、今、僕が安易でしたね。山口方面、広島方面とかっていうのがちょっと安易だったかもしれないですけども、近場の中でこのしっかりとしたコンセプトを持って選ぶというところで。

なので、後で、まず出てきた案をどの班で担当するかっていうところは振り分けるっていう形にしましょうか。皆さん、それぞれの班で考えてもらって、重複したところは、やはりニーズはあるというか、行くべきところなんだろうっていうところになると思うので、次回までに候補、行きたいところ、調査研究に行くべきところ、行きたいというか、行くべきところを出していただいて、そのときに気をつけたい調査項目というのものも、基

本の調査項目もいいですし、その道の駅に関して、これを聞きたいんだっていう調査項目まで上げていただけると、行く意味が明確になるかなと思いました。

加えて、先ほど、ちょっと触れましたけど、道の駅に限らず官民連携してるところとか、こういう施設はどうだろうかという提案も受けようと思いますので、でない、ちょっと今回の執行部の説明が大きく広がったものというところもありますので。ただ、今のところ道の駅を造るのは前提になってますので、道の駅も押さえつつということにしたいと思います。

よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 次回を決めて、それまでに、班の中で、ちょっとどういうところがいいかっていうところも出していただけたらと思います。

日程は、次の日程で決めたいと思いますが、よろしいですか。

[発言する者あり]

○小田上委員長 よろしいですね。

では、あとは今、この進め方で決まってないな、消化し切れてない、ここ、どうなんだろうっていうところがあれば、伺います。

副議長。

○寺岡副議長 すいません、確認して共有しておきたいんですけど、まず、委員会で決まっていたことは、これは公務になるんですよね。ということは、まず事務局が同行するののかということ、例えば、乗り合わせてという話の流れになってますが、そのときのガソリンの費用はどうするのかということと、あと、特別委員会なので曖昧なんですけど、議長の議員派遣がいるのかというところは、明らかにしてもらえたら、みんなで公務というのを共有できたらと思うんですけど。

○小田上委員長 ありがとうございます。議長の議員派遣というところは、確認をしておきます。

公用車等を使えば、一番簡単なんですけど、公用車は、議員だけでっていうところが難しく、事務局員も手の数が限られておりますので、基本的には視察は、班メンバーだけで行っていただこうかなと今のところ考えております。

その際は、皆さん、政務活動費の精算でされたことおありの方もおられるかもしれませんが、自家用車を使った場合には、距離に対して出るガソリン代というのがあります。旅費条例のその計算で出させていただくように、今、調整をしているところで、それは可能なようなので、例えば、末広チーフの班で、末広チーフが運転をして、4人が行くといった場合には、末広チーフにはガソリン代と日当、ほかの3人の委員には日当の支給というような整理をしていきたいと思います。

道の駅っていう性質上、公共交通機関の乗り入れがちょっと悪いところもあるやもしれませんので、駅が近くではないというあたりも考慮して、そういうふうに行えたらと思います。

あと、足りてないところがありますか。

議員派遣の件や副議長に御指摘いただいたところも、次回まとめておきたいなと思います。

副主任。

○山田副主任 議員派遣ではなくて、委員派遣承認は必要だと思います。

なので一度、特別委員会を開催して、委員派遣承認を議長にしたいというのを諮っていたら、そこで事務を議会事務局が行いたいと思いますので、それは可能だと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。なので、行き先と日程、メンバーも決まって、この日程で行きますというところを、この委員会で諮って議長にお願いすればいいことですね。別に本会議で議員派遣しなくても大丈夫ということですね。

副議長。

○寺岡副議長 大体様子が分かりましたので、あとの整理をお願いします。公務災害も多分当てはまるんだろうから、その辺りもはっきりさせとってもらえたら。

○小田上委員長 ありがとうございます。ほかに疑問点、決めておかないといけないところはございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 では、日程2を終了いたします。

日程3、その他です。

13時から、議会報告会の班長会議が行われました。

各特別委員会も報告事項があれば、議会報告会で報告をとということでしたが、午前中にあった基地周辺対策特別委員会では報告事項はなし、この後控えています議会のあり方調査研究特別委員会ではあると伺ってます。広報広聴特別委員会もあるということです。小方まちづくり特別委員会は議会報告会の報告をどうしますか。御意見をお願いいたします。

中川委員。

○中川委員 今のところは特段しないほうがいいんじゃないかと思います。かえって混乱するような感じになりますので、そう思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。しないという御意見ございましたが、いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 執行部のほうで決まっていることはありますが、この委員会で時間かけて頑張ってる割には、まだ具体的な動きができてないところなので、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 はい、分かりました。

では、次回の日程調整に移りたいと思います。

議会報告会を控えておまして、6月後半から7月下旬までかなりタイトとなっております。また皆さんに、追って通知あると思いますが、7月11日木曜日の午前中に議員全員協議会が入る予定になろうかと思っています。その後は、実際に議会報告会に向けてという流れになるとは思いますが、7月の16日の週、17日の午後はいかがですか。

[発言する者あり]

○小田上委員長 それか、候補地と流れを決めて、実際に動き始める期間を長く取ったほうがいいかもしれないので、もうちょっと早めに。例えばですけど、難しいかもしれませんが、来週の本会議最終日、今日、総務文教委員協議会がありますけど、最終日までに候補地とか出してもらって、5月1日から3日のあたりで1回決めてしまって、そこまでに整理をして、調査を始められるところは調査を始めるとかでも動きは取りやすいのかなと思うんですが、事務局、忙しいですか、大丈夫ですか。

○細川委員 7月9日の総務文教委員会の後はどうですか。

○小田上委員長 7月9日の総務文教委員会の後でよろしいですか。

[発言する者あり]

○小田上委員長 できれば、7月後半にも開きたいんですよ。執行部からの報告事項を毎月受けたいという、お願いしたいと言ってますので、用意していただけたらと言ってます。報告事項、そこまで多くはないですけど、あるようなので、それも踏まえるとあんまり遅くならないほうが、早めにやったほうがいいかなと思います。7月8日か9日のあたりで、調整できそうなところありますか。

副主任。

○山田副主任 先ほど、細川委員が7月9日の総務文教委員会の後はどうかと言われましたが、議長不在でいいのであれば、7月9日の総務文教委員会が終わった後に時間を取ることにはできるかもしれないです。

○小田上委員長 暫時休憩します。

14時43分 休憩

14時44分 再開

○小田上委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

休憩中に協議しまして、7月9日総務文教委員会終了後に開催ということでお願いします。そうなってくると、いとまがありますので、班で行き先等を出していただいて、こういうところ見たほうがいいんじゃないかというところもしっかりと出していただければと思います。

7月5日金曜日の締切りものが結構多いので、事務局しんどいと思うんですよ。なので、7月9日の会議までに資料があればいいという状況にしたいと思うんですけど、8日中とかでも、大丈夫ですか。

副主任。

○山田副主任 まとめる作業とかがなければ、8日の午前中までにして、午後から、サイドボックスにばんばん貼り付けるという作業であれば可能かなとは思いますが。

○小田上委員長 ありがとうございます。様式はお任せしますので、8日の午前中までに説明しやすい様式で、各グループごとに資料を作っていただいて、提出をいただけたらと思います。事務局は、提出があったものをそのまま上げるだけの作業をお願いします。

よろしいですか。

中川委員。

○中川委員 距離的にはどれぐらいまでですか。

○小田上委員長 1泊になると、また話が替わってくるので、日帰りできる距離でというところを少し検討いただけたらなと思います。その辺りもちょうどこの間に調整はしていこうと思いますので、はい、よろしくをお願いします。

○小田上委員長 末広委員。

○末広委員 話が戻るんですけども、この視察の件は、ちょっと別で、近隣のことを調べたほうが、さっきも委員長がおっしゃっていましたが。これ、全然焦る必要もなく、もう9月、10月でもいいと思うんですけど、廿日市市は開発が始まっているので、こちらは例えば、班とかじゃなくて全員で、もし聞けるんだったら聞いたほうがいいですよ。そこら辺はどうされるのかなというところをお願いいたします。

○小田上委員長 ありがとうございます。基本的に講師を招いてとか、勉強っていうところは皆さんでももちろん、やっていきます。視察というところは、日程を合わせてどこかに行つてという作業なので、分かれておいたほうが行きやすいだろうというところで、視察先に行つて、その成果を発表してつていうところまでは、時間かかったりとかすると思うので、それと同時並行で座学というか、講習を受けるつても必要だと思います。その流れも同時並行でできたらなと思います。講師を呼んでというところの、講師というところに入るのかなと思いますので、そのスケジューリングとかも踏まえて、次回お示しできればなと思いますので、はい、そのようにやっていきたいと思います。

ほか、よろしいですか。

小出委員。

○小出委員 イメージとして1日でしょうか。2日や3日にまたがつてつていうこともあるんでしょうか。1日で車でいったときに、午前中1か所、午後1か所つていう感じかなつていうふうに思うんですけど、そうすると、日帰りであれば、2か所、あるいは多く回れても3か所つていう感じなんでしょうか。2か所、3か所の候補を上げるということでもいいでしょうか。

○小田上委員長 複数上げていただかないと、受入れをしていただけるかどうかもありますので、複数上げていただいて、その中でうまく地域分けとか効率よくつていうところができたらなと思います。

日帰り等で、宿泊を伴わないのであれば、回数が増えても予算的にはそこまで大きくなるのかなと思います。ちょっと、そこも整理させてください。ただ、1回で終わるかどうか、複数提案をしていただいて、5か所ぐらいは提案いただけたらと思います。無理にとは言いません。ちゃんと目的が示せるところで、複数箇所をお願いします。ありがとうございます。

中川委員。

○中川委員 候補を出すのは、グループで出す。グループで絞つて出すということで分かりました。

○小田上委員長 はい。なので、グループ内でここがいいんじゃないかって言ったときに、なんでそこのとつてつていう話もしながら、こういうところは、ではこういうところ見たほ



うがいいよねとかいうものをやっとなないと、ただ見たいからみたいになっちゃいそうなので、そこの辺りの協議をお願いします。

ほかにございますか。不明なまま、もやもやがあるまま宿題に取りかかるといいことがないので。

豊川委員。

○豊川委員 すいません、講師についてなんですけれども、Zoomのほうが講師料というのはお安いでしょうか。こちらに来てもらったほうが、やっぱり値段は高いんですか。予算の面が、ちょっと分からなかったのです。

○小田上委員長 今の現段階で上がってる方々がですね、県や市とかの職員ですね、地方公共団体の職員なので、基本的にプラスアルファで講師代っていうのがかからない方っていうところだったのですが、実際にZoomでもお名前のある方だと、講師料は高くなったりとかもあります。こちらに来ていただく交通費を出さなくてもいい可能性があるっていうところでは、費用的には効果あるかもしれないですけど、Zoomだから安くなることは限らないというところかなと思います。よろしいですか。

○豊川委員 はい、ありがとうございます。

○小田上委員長 また、講師案等がありましたら、適宜言っていただいても結構ですし、ちょっと委員長、副委員長のほうで、その辺りスケジュール感とか含めて考えていきたいと思えます。

そのほか、よろしいですか。

○小田上委員長 副議長どうぞ。

○寺岡副議長 30秒だけ。総合的なことで。

○小田上委員長 副議長。

○寺岡副議長 すいません、ちょっと気づきを30秒だけ、お話しさせていただければ。

3月にこの委員会が立ち上がったときに、あのばたばた感も皆さん覚えておられると思えます。

ただ、もし6月議会にそれが先延びになってたら、今日この6月の時点で、正副委員長が決まってるかどうかという段階かなというふうに感じます。

ですので、もう既に次のテーマに入ってアクションに入れようとしてますので、この時間的な経緯というのを体感的にですね、皆さん方、覚えとっていただけたらいいんじゃないかなと思います。この3か月で何もやってないように委員長は謙遜されましたけど、そういうふうな方向が定まって進んでますので、それは感覚的に覚えておいてください。以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。確かに、執行部から報告をもらって、質問して、そうか進んでますね、皆さん自信を持ってやっていきましょう。

以上で日程3を終わろうと思えますが、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○小田上委員長 本日の日程は全て終了いたしました。

小方まちづくり特別委員会を閉会します。

(6.6.21)

お疲れさまでした。

14時52分 閉会